

櫻井会長 開会あいさつ

都道府県会長会開会にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、ここ宮城県で会議を開催するにあたり、中島宮城県議会議長並びに村上宮城県町村会長に、お臨席をお願いいたしましたところ、公務極めてご多忙の折にもかかわりませず、曲げてご出席いただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。

改めまして、皆様、ようこそ宮城県においでくださいました。

宮城県の県東は太平洋に面し、豊かな漁場と日本三景のひとつ松島をはじめとする風光明媚な景勝に恵まれたところです。県西は蔵王・船形・栗駒などの山々が連なり四季折々の姿を見せ、中央部には有数の穀倉地、仙台平野が広がっており、文字どおり、海・山・川・平野が調和した自然豊かな故郷であります。

また、これら自然に育まれる食材も豊富で、「食材王国みやぎ」をキャッチフレーズに「食」に関する産業振興に努めておりますので、皆様方には、滞在中、より多くの宮城産の食材と食品をご賞味いただき、お気に召す逸品がございますれば、お土産としてお持ち帰りいただければ幸いに存じます。

この様に自然の恩恵に与った宮城県ですが、平成 23 年の東日本大震災においては、死者 1 万人超、住宅の全半壊 23 万 8 千戸超、被害総額 9 兆円超という甚大な被害を受けました。仙台から東北本線で 20 分ほどのところにある私の地元・利府町もまた被災した街のひとつであります。

震災から 10 年の節目となる 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会は、「復興五輪」と位置付けられ、被災者に勇気と希望を与え、復興した被災地の姿を世界各国に発信することが目的とされており、我が利府町では「サッカー」が、原発事故からの復興に取り組む福島県では「野球」が行われる予定となっております。また、2019 年のラグビーワールドカップに目を向ければ、津波被害の大きかった岩手県釜石市や熊本地震の被災地である熊本県や大分県で、予選ラウンドが開催されることが決定しております。

このように、東日本大震災の集中復興期間終了を前にして、スポーツイベントを中心に被災地を盛り上げていただく試みが活性化していることは、被災地の一議長として大変心強く感じているところであります。

とは言え、原発災害等により未だ多くの方々が不自由な避難生活を余儀なくされていること、復興の進んだ地域でも生活再建や産業再生に苦慮されていることなどを鑑みれば、復興が道半ばであることは紛れのない事実でございます。

従いまして、この会長会の名の許に、「東日本大震災及び熊本地震からの復旧・

復興と大規模災害対策の確立に関する決議」を行い、被災地の復興加速を後押ししていただきたいと考えておりますので、皆様の満場のご採択をお願い申し上げます。

さて、町村議会議員のなり手不足問題に関しましては、総務省に設置された「町村議会のあり方研究会が」3月に報告書を取りまとめました。

報告書の内容は後程ご報告いたしますが、当事者である本会としては、全く受け入れ難いものでございましたので、去る3月26日、この研究会に対する意見を公表したところであります。

私は、先日、なり手不足に悩む北海道浦幌町の田村議長と懇談する機会がありました。浦幌町議会では、自らの町の現状を真摯に受け止め、現行制度の中で、苦労をして、工夫をして、提言書をまとめられております。総務省の研究会の報告書は、このような現場からの提案の具体化を検討した跡も見られませんし、小規模町村議会の切り捨てや議会の権限低下に繋がりがねない大きな問題を抱えたものです。

全国町村議会議長会では、これまでどおり、なり手不足対策として、兼業禁止の緩和、補欠選挙の改正、公営選挙の拡大、手当の拡充、休暇・休職・復職制度の整備等の制度改正の実現等を求めていくとともに、地方議会議員の位置づけを明確化したうえで、町村議会議員の議員報酬の底上げ、厚生年金制度への加入などの待遇面の改善を図って参りたいと考えております。

「物事、小事より大事は<sup>たつ</sup>発るものなり。油断すべからず。」

これは、宮城県が生んだ戦国武将、独眼竜こと伊達政宗公の言葉であります。大きな事件の前には、必ず看過してはならない小さな出来事が起こるものです。

私は会長として、全国の927の町村議会が、ひとつも欠けることなく発展を続けるため、どんなに小さな障害や課題であっても見逃さず、解決を先送りにせず、常に真摯に対処して参りますこととお誓いいたしますので、都道府県会長の皆様におかれましても、今後一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます、仙台開催の都道府県会長会開会にあたってのご挨拶といたします。

平成30年5月29日

全国町村議会議長会会長 櫻井 正人